

後患を顧みず

① 呉王荊を伐たんと欲し、其の左右に告げて曰はく、
は 討とう 思い 側近たち 言うことには

「敢へて諫むる者
しいて (私を) 抑え止めようとする
有らば 死せん。」と。
が いる ならば 殺そう

② 舍人に少孺子なる者有り。
という が いた
③ 諫めんと欲するも敢へてせず。
抑え止め よう 思った が 進んで しなかつた

④ 則ち丸を懷き 弾を操りて、後園に遊ぶ。
そこで 弾 懷に入れはじき弓 手にとつ 裏庭 で 歩き回つた

⑤ 露 其の衣を沾す。
は 彼の 湿らせた

⑥ 是くのごとき者三旦なり。
こ ような こと 朝三日間 であつた は
なり。

⑦ 呉王曰はく、「子来たれ。
が 言うことには お前 こつちに来い
【カ四命】 何ぞ どうして このように 辛く思つ 衣類 濡らして いるのか
苦しみ て衣を沾す こと

此くのごとき。」と。

⑧ 対へて曰はく、「園中に樹有り。其の上に有り。
少孺子が 答え 言うことには 庭 の 木 が ある その が います

⑨・高居し　悲鳴し　て露を飲み、
は　高いところにいて　高い声で鳴い　飲んで

螳螂の其の後ろに在るを知らざるなり。
カマキリが　いる　こと　ない　のである

⑩螳螂身を委ねて曲附し、・を取らんと欲し、
カマキリ　体　かがめ　脚を縮めて　ところ　う　思い

而も黄雀の其の傍らに在るを知らざるなり。
しかしスズメ　が　近く　いる　こと　ない　のである

⑪黄雀頸を延べ、螳螂を啄まんと欲し、
スズメ　は　延ばし　カマキリ　ついばもう　思い

而も弾丸の其の下に在るを知らざるなり。
しかも　はじき弓と弾　が　ある　こと　ない　のである

⑫此の三者は、皆務めて其の前利を得んと欲し、
ぜひともの　利益　よう　思い

而も其の後ろの患へ有るを顧みざるなり。」と。
しかし　災難　が　ある　こと　ない　のである

⑬呉王曰はく、「善きかな。」と。乃ち其の兵を罷む。
が　言うことには　よろしい　なあ　そこで　出兵　取りやめた